（様式第３号）

令和５年１月 29 日

登米市議会議長　關　　孝　殿

伊　藤　　栄

調　査　報　告　書

調査の概要は次のとおりであります。

記

１．　調査目的

（１）山口県下関市（ジビエ有効活用推進事業について）

下関市では、農林作物等の被害軽減のために、捕獲したイノシシ及びシカを地域資源として有効活用するため、県内初の公設による有害獣食肉加工処理施設を設置している。加工、販売については、指定管理者の自主企画事業である。

本市においても、イノシシ及びシカによる農作物等の被害が毎年増えていることから、下関市の取り組みを視察することにより、地域資源として有効活用できることを提案するために調査する。

（２）広島県神石高原町（ドローンの利活用について）

市街地の上空など、操縦者の目が届かない距離でもドローンを自動で飛ばすことを解禁する改正航空法が昨年 12 月５日に施行された。さまざまな社会課題の解決につながるとの期待が大きい。

神石高原町は昨年４月、ドローンフィールド２カ所をドローン事業者や自治体向けの体験及び実証実験施設として正式オープンした。その取り組みを視察することで、本市におけるドローンの利活用について提案するために調査する。

（３）岡山県高梁市 JA 晴れの国岡山 高梁支店（ブドウ栽培事業について）

シャインマスカットは歴史が浅いが、今や国内市場ではブドウ品種の中で一番人気である。本市においても、ビニールハウスを利活用して、栽培に取り組む農家が徐々に増えてきている。現在、国内において産地の一つとして挙げら

れるのが「果物王国」岡山県である。

本市の農業においては、若い世代の新規就業者の確保・育成が課題の一つとなっている。また、果樹においては、新たな作物の生産に取り組むことも必要であると考える。これらの解決に向けた方策として、JA 晴れの国岡山の取り組みの現状を視察し、さらに本市で栽培を促進する上での課題解決の参考とするため調査する。

2．調 査 先　　山口県下関市、広島県神石高原町、
JA 晴れの国岡山 びほく広域営農経済センター

3．調査期間　　令和５月１月 18 日から
令和５年１月 20 日まで　３日間

4．調査の経過と結果並びに所感　　別紙参照

5．添付書類　　調査先の説明資料

倉敷市議会
受
-5.1.30
付

■調査報告書①

1．日　　時　　令和5年1月18日（水）　13時30分から15時

2．場　　所　　山口県下関市役所

3．目　　的　　ジビエ有効活用推進事業について

4．説 明 者　　下関市農林水産振興部 農業振興課 有害鳥獣対策室
室長（課長補佐）　田中　剛雄　氏
主任　　深田　明義

5．所　　感

野生獣として、イノシシやシカ、サルが主であるが、下関市ではイノシシが増えているとのことだった。その主な防止対策として、侵入防止棚設置と有害鳥獣捕獲奨励事業を実施。捕獲実績では圧倒的にイノシシが多いことから、平成 20 年8月に近隣市とともに体制整備を行い、捕獲意欲の向上や被害の減少を図ることを目的として、「有害獣肉を有効活用するための加工・販売を行う組織の育成」と「有害獣の肉処理施設の整備しくみづくり」について検討を進めてきた。

以降イノシシ等の処理衛生管理ガイドライン作成、飲食店・食肉販売店やジビエ料理 PR のアンケート調査を実施するなど、今日に至っている。

ジビエセンターは、指定管理として順調に経営されていることから全国から視察に来ている状況であった。

本市では、野生獣の被害はシカが主となっているが、今後イノシシによる被害拡大も懸念されることから、出口戦略（ジビエ料理）を視野に検討する必要があるのではないか。

■調査報告書②

１．日　　時　　令和５年１月19日（木）　13時30分から15時

２．場　　所　　神石高原町役場

３．目　　的　　ドローンの利活用について

４．担 当 者　　未来創造課 課長　高橋　徹朗　氏
　　デジタル推進室 デジタル推進係 主査　中野　達也　氏

５．所　　感

神石高原町は、広島県東部の山間地に位置し、面積380ｋ㎡、高齢化率は約50％で少子高齢化の進行に歯止めが利かない地域である。少子高齢化の進行により、災害対応に困難が見込まれること、また集落機能の低下危機感から、「地産地防」をコンセプトに、ドローンを活用し、地域の住民で防災・減災に取り組んでいる。

令和元年度から４年度まで、パイロット26名を養成し、物資の配送・防災等への活用などの実証実験を重ねている。今後は、大型ドローンスクール運営事業者の企業誘致に取り組むとのことだった。

ドローンの活用に向けて、様々な実証実験が行われているが、神石高原町の場合、少子高齢化に深刻な過疎地域で防災面に活用する取り組みは非常に評価をしたい

■調査報告書③

1．日　　時　　令和5年1月20日（金）　9時から10時50分

2．場　　所　　JA晴れの国岡山 びほく広域営農経済センター

3．目　　的　　ブドウ栽培事業について

4．担 当 者　　JA晴れの国岡山 びほく広域営農経済センター
　　センター次長兼販売課 課長 [redacted] 氏
　　販売課 課長代理 [redacted] 氏
　　JA晴れの国岡山 びほくぶどう生産部会
　　部会長 [redacted] 氏

5．所　　感

晴れの国びほくは、岡山県の中西部に位置する典型的な中山間地であり、標高300～500m、年平均気温が 12.9 度、昼夜の温度差が大きくブドウ栽培に適している地域である。近年、シャインマスカットの栽培が急激に増加していることから、出荷時期が重なり販売価格の低下が懸念されことから、冷蔵保存により出荷時期を遅らせることで生産者の所得向上を図っていた。

登米市内のシャインマスカットの収穫ピークは 10 月となるが、この時期は全国各地から出荷されるため、価格も下落する一方で期待が持てない状況となっている。

冷蔵保存で収穫時の鮮度を保ち、出荷時期を調整することで、市場価格も高値安定させる取り組みは、正に生産者の願いであると思う。しかし、冷蔵庫はまだまだ市場に出回っていないことから、非常に高値であり、導入まではハードルが高いと感じた。